

世間はクリスマスムード一色の 12 月 25 日に、私はアジア史開催の東洋文庫見学会に参加しました。この東洋文庫見学会はただの見学会ではありません！なんと、一般には入ることのできない、東洋文庫の書庫を見学できるのです。

書庫には数多くの貴重な史料が眠っています。最初に見たのは中国の族譜で、これを見るために、最近では中国から出張してくるほど、知られざる名品なのです。

そして、次に向かったのが貴重な品々が眠る書庫でした。

東洋文庫にはあまりにも多くの品が眠っているので、もちろん全部を見ることはできません。私たちのために、名品を少しだけ展示していただきました。甲骨文字、百万塔陀羅尼（奈良時代の印刷物！）、チベットの死者の書、永楽大典の原版、ヘタウマな外戚に関する本、乾隆帝のジュンガル遠征図、教科書でみたあの図、孫文作の地図、浮世絵…これらは、博物館の展示に行けば見られるものかもしれません。しかし、今回のアジア史特別公開のうまみは、見るのに一切の邪魔がないということです。博物館の展示を思い出してください。我々とその展示品は、ガラスの壁で隔てられ、特に、小さい展示品などはもう少し近くで見られたらいいのに…と思うことでしょう。ゆっくり、じっくりと貴重な文物を見られた経験は何物にも代えることはできません。

また、浮世絵は東洋文庫の方曰く「値がつけられないほど、」である鈴木春信の浮世絵も見せてもらいました。眼福です。

それから、私たちはかつての東洋文庫名物、河口慧海老師像のある書庫に参りました。この像には曰くがあり、多くの東洋文庫職員を恐れさせてきた像らしいです。同時にご利益がありそうな像です。その河口慧海老師像の見守る書庫にはチベット、モンゴルのお経や、韓国の文献、ベトナムのチュノムなどがあります。特にお経は、かつてチベット僧侶がわざわざ見に来たそうです。

二時間程度でしたが、とても密度の濃い内容でした。アジア史に入ったら、一度は参加するべきです。